

Weekly Market Recap

Japan | September 4, 2017

Q. 先週の主なイベントは？

- 8月31日 ユーロ圏:8月消費者物価指数速報、実績前年比+1.5%
- 8月31日 米国:7月PCEコア物価指数、実績前年比+1.4%
- 9月1日 米国:8月雇用統計、非農業部門雇用者数の前月差、実績+15.6万人、前月+18.9万人
- 9月1日 米国:8月ISM製造業景気指数、実績58.8、前月56.3

Q. 先週の日米株式市場の動向は？

日経平均株価は7週ぶりに上昇。北朝鮮のミサイル発射で一時的に下落したが、円高が長続きせず、安値での押し目買いが入ったことなどから、株高に転じた。米国株式も上昇。物価や賃金の伸びが弱く、金利が低位安定するとの見方が強まったほか、製造業の景況感などが良好だったことが背景。

Q. 今週の主なイベントは？

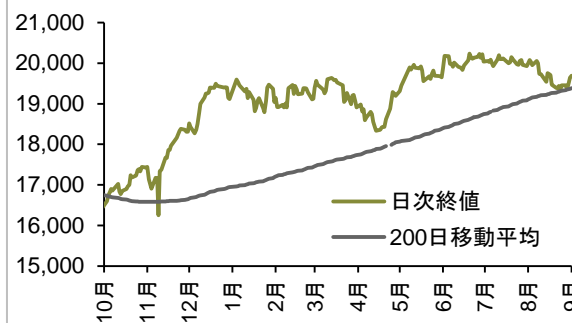
- 9月5日 豪州:中央銀行金融政策会合、市場予想据え置き
- 9月6日 ブラジル:金融政策会合、市場予想1.00%の利下げ
- 9月7日 欧州中央銀行(ECB)理事会、政策金利は市場予想据え置き、資産買入れプログラムの変更を具体的に示唆するかに注目

Q. 金融市場にとっての波乱要因が多い、9月の投資戦略は？

- 【結論】 今月は、①米国の財政を巡る問題(以下で詳述)、②北朝鮮情勢の緊迫化、③欧米の金融政策など、多くの不透明要因がある。筆者は、イエレンFRB議長やドラギECB総裁が金融引き締めに積極的な姿勢に転じる可能性が低いと見ており、③が欧米金利の上昇要因にはならないと考えている。一方で、①は米国の金利低下要因になるほか、②は日本企業や投機筋の円買いに繋がる可能性があることから、円高に注意が必要な局面と考える。従って、投資戦略としては、円ヘッジの活用を検討したい。
- 【米国の財政問題とは？】 ①連邦政府機関の閉鎖問題と、②連邦政府債務上限の引き上げ問題がある。①に関しては、米国の2017会計年度が9月末で終了するため、それまでに来年度予算が成立しなければ、政府機関の閉鎖に至る。②については、議会が定めている米国国債の上限を、来月中旬(注:今月末あたりまでの見方もある)までに引き上げられなければ、米国国債がデフォルトに陥る可能性が急速に高まる。
- 【なぜ、問題が深刻化しているのか？】 トランプ大統領、共和党議員、民主党議員の意見対立が根深いため。まず、トランプ大統領は、低迷が続く政権の支持率を回復するために、選挙公約である「メキシコとの国境の壁」の建設費用を新年度予算に盛り込みたいという意向がある。一方で、民主党議員や一部の共和党議員は、トランプ政権の予算方針(壁の建設費用の盛り込みや、国防・安全保障関連以外の歳出削減など)に強く反発している。また、共和党議員の保守派は、財政均衡を重視しているため、歳出削減なしでの債務上限の引き上げに慎重な姿勢を貫いている。
- 【見通しは？】 最終的には、①政府機関の閉鎖は回避でき、②債務上限の引き上げも実施できる可能性が高いと考えている。足元では、大統領や議会がこれらの問題を先送りし、ハリケーン「ハービー」の被災者支援を最優先するとの観測が出てきているためである。ただし、上記の通り、対立は根深いため、一時的に政府機関が閉鎖される可能性は捨てきれない。

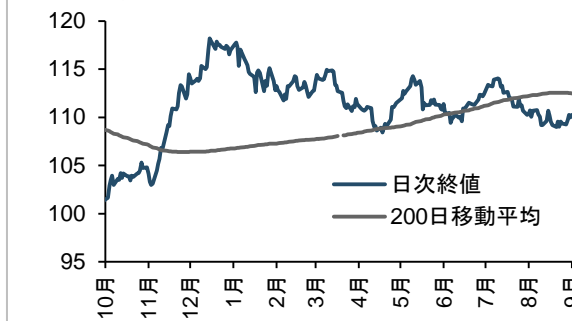
日経平均株価の推移

(円、2016年10月1日~2017年9月1日)



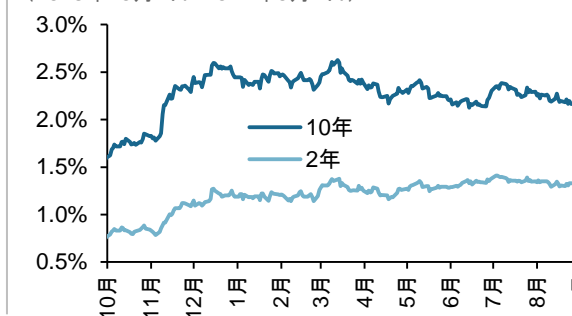
ドル・円相場の推移

(1ドル=円、2016年10月1日~2017年9月1日)



米国2年国債・10年国債利回りの推移

(2016年10月1日~2017年9月1日)



国	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
日経平均株価	19,691	1.2%	-1.9%	3.0%
東証株価指数(TOPIX)	1,619	1.4	-0.9	6.6
東証REIT指数	1,675	-0.6	-0.9	-9.7
米ダウ平均株価	21,987	0.8	-0.1	11.3
米S&P500指数	2,476	1.4	0.0	10.6
米MSCI REIT指数	1,166	0.7	0.3	1.6
MSCI ワールド(先進国)	1,965	1.1	-0.2	12.3
MSCI AC欧州	466	0.7	-0.3	16.6
MSCI エマージング	1,091	0.6	2.0	26.6
MSCI ACアジア(日本を除く)	663	0.5	0.8	29.1

外国為替市場(対円)

通貨	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
米ドル	110.25	0.8%	-0.4%	-5.7%
ユーロ	130.75	0.3	-0.4	6.3
豪ドル	87.87	1.3	-0.4	4.3
ニュージーランドドル	78.91	-0.4	-4.1	-2.6
ブラジル・レアル	35.11	1.4	-1.3	-2.3
メキシコ・ペソ	6.19	-0.3	-0.4	9.7
トルコ・リラ	32.15	1.1	2.6	-3.9
南アフリカ・ランド	8.51	1.4	1.5	-0.3
中国人民幣	16.80	2.3	2.3	0.0
インドネシア・ルピア(x100)	0.83	1.0	-0.5	-4.7

国債市場(利回り、%)

国	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
米国10年	2.17	0.00	-0.11	-0.28
ドイツ10年	0.38	0.00	-0.11	0.17
日本10年	0.00	-0.02	-0.08	-0.05
ブラジル2年	7.99	-0.06	-0.19	-3.04
メキシコ2年	6.77	0.04	0.05	-0.02
トルコ2年	11.59	-0.04	0.04	0.96
インドネシア2年	6.12	-0.21	-0.42	-1.35

その他

商品	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
金先物(ニューヨーク、期近物)	1,330	2.5%	4.1%	15.5%
原油先物(ニューヨーク、期近物)	47	-1.2%	-4.6%	-12.0%
VIXボラティリティ指数	10.0	-10.2%	-1.5%	-27.8%

Weekly Market Recap

Japan | September 4, 2017

出所: Bloomberg Finance L.P., J.P. Morgan Asset Management

本資料はJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が作成したものです。本資料に記載の見通しは投資の助言や推奨を目的とするものではありません。また、J.P.モルガン・アセット・マネジメントあるいはそのグループ会社において記載の取引を約束するものでもありません。予測、数値、意見、投資手法や戦略は情報提供を目的として記載されたものであり、一定の前提や作成時点の市場環境を基準としており、予告なく変更されることがあります。記載の情報は作成時点で正確と判断されるものを使用していますが、その正確性を保証するものではありません。本資料では、お客さまの投資判断に十分な情報を提供してならず、証券や金融商品への投資のメリットをお客さまが自身で評価するにあたって使用するものではありません。また、かかる法務、規制、税務、信用、会計に関しては、個別に評価し、投資にあたっては、投資の目的に適合するかどうかに関しては専門家の助言とともに判断してください。投資判断の際には必要な情報をすべて事前に入手してください。投資にはリスクが伴います。投資資産の価値および得られるインカム収入は市場環境や税制により上下するため、投資元本が確保されるものではありません。過去のパフォーマンスおよび利回りは将来の成果を示唆・保証するものではありません。

J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。本資料は、以下のグループ会社により発行されたものです。

ブラジル: バンコ・J.P.モルガンS.A. (ブラジル)、英国: JPモルガン・アセット・マネジメント(UK) リミテッド、英国以外のEU諸国: JPモルガン・アセット・マネジメント(ヨーロッパ) S.à r.l.、スイス: J.P.モルガン(スイス) SA、香港: JFアセット・マネジメント・リミテッド、JPモルガン・ファンズ(アジア) リミテッド、JPモルガン・アセット・マネジメント・リアル・アセット(アジア) リミテッド、インド: JPモルガン・アセット・マネジメント・インド・プライベート・リミテッド、シンガポール: JPモルガン・アセット・マネジメント(シンガポール) リミテッド(Co. Reg. No. 197601586K)、JPモルガン・アセット・マネジメント・リアル・アセット(シンガポール) プライベート・リミテッド(Co. Reg. No. 201120355E)、台湾: JPモルガン・アセット・マネジメント(台湾) リミテッド、JPモルガン・ファンズ(台湾) リミテッド、日本: JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第330号 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会)、韓国: JPモルガン・アセット・マネジメント(コリア) カンパニー・リミテッド、オーストラリア: JPモルガン・アセット・マネジメント(オーストラリア) リミテッド(ABN 55143832080)(AFSL 376919)(Corporation Act 2001 (Cth) 第761A条および第761G条で定義される販売会社に配布が限定されます)、カナダ(機関投資家限定): J.P.モルガン・アセット・マネジメント(カナダ) インク、米国: JPモルガン・ディストリビューション・サービス・インク(FINRA/SIPC会員)、J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク

本資料は、アジア太平洋地域において、香港、台湾、日本およびシンガポールで配布されます。アジア太平洋地域の他の国では、受取人の使用に限ります。

【ご留意事項】 お客さまの投資判断において重要な情報ですので必ずお読みください。投資信託は一般的に、株式、債券等様々な有価証券へ投資します。有価証券は市場環境、有価証券の発行会社の業績、財務状況等により価格が変動するため、投資信託の基準価額も変動し、損失を被ることがあります。また、外貨建の資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。そのため、投資信託は元本が保証されているものではありません。

◆ご注意いただきたい事項について: 投資信託によっては、海外の証券取引所の休業日等に、購入、換金の申込の受付を行わない場合があります。投資信託によっては、クローズド期間として原則として換金が行えない期間が設けられていることや1回の換金(解約)金額に制限が設けられている場合があります。分配金の額は、投資信託の運用状況等により委託会社が決定するものであり、将来分配金の額が減額されることや、分配金が支払われないことがあります。

◆ファンドの諸費用について: 投資信託では、一般的に以下の手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託の購入時: 購入時手数料(上限3.78%(税抜3.5%))、信託財産留保額

投資信託の換金時: 換金(解約)手数料、信託財産留保額(上限0.5%)

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)(上限年率2.052%(税抜1.9%))

*費用の料率につきましては、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての公募投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しています。その他、有価証券の取引等にかかる費用、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税等の実費(または一部みなし額)および監査費用のみなし額がかかります(投資先ファンドを含みます)。また、一定の条件のもと目論見書の印刷に要する費用の実費相当額またはみなし額がかかります。

◆すべてのインデックスは実際に運用されているものではなく、各投資家が直接投資できるものではありません。また、インデックスのリターンは手数料・費用が考慮されておりません。日経平均株価に関する著作権、知的所有権その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は日経平均株価を継続的に公表する義務を負うものではなく、その誤謬、遅延又は中断に関して責任を負いません。©日本経済新聞社。S&P Dow Jones Indices LLCの各インデックスは、S&P Dow Jones Indices LLCが発表しており、著作権はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属しています。MSCIの各インデックスは、MSCI Inc.が発表しています。同インデックスに関する情報の確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。著作権はMSCI Inc.に帰属しています。株式会社東京証券取引所が発表する各インデックスは、株式会社東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。なお、ファンドは、東証等により提供、保証または販売されるものではなく、東証等は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。シティの各インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権はCitigroup Index LLCに帰属しています。Bloombergの各インデックスは、Bloomberg Finance L.P.が発表しており、著作権はBloomberg Finance L.P.に帰属しています。

Copyright 2017 JPMorgan Chase & Co. All rights reserved

Material ID: 0903c02a81ef1327